

第35回 日本がん看護学会
国際活動委員会主催セッション

Advancing Symptom Science for Oncology Patients in the Era of Precision Health

(プレジジョン・ヘルス時代における
がん患者のための症状科学の進歩)

講師：Christine Miaskowski 先生
(University of California, San Francisco)

座長：宮下 美香 先生 (広島大学大学院医系科学研究科 教授)

がんゲノム医療は著しく進歩しているが、
実臨床においてゲノム情報は主に治療に活用されており、
看護への活用は限定的な状況です。

個別化医療を可能にするゲノム情報は看護分野にも大きな発展をもたらすことが期待されており、米国では、ゲノム情報をがん治療に伴う症状の個別性予測に用いて看護ケアに活用する取り組みがすでに始まっています。

本セッションでは、ゲノム情報とがん治療に伴う症状との関係について研究を進めておられるMiaskowski先生を講師にお招きし、がん患者の症状をよりよく理解するために看護学研究者が分子生物学的な手法をどのように活用しているのかをお話いただきます。

看護学の視点からゲノム情報をどのように活用することができるのか、実際にどのような看護が展開できるのかについて理解を深めていくと同時に、実践を支えるシステム構築や教育のあり方についても考える機会といたします。

Miaskowski先生には特別講演1の内容を踏まえてお話いただきますので、ぜひ特別講演1とともにご視聴ください。

主催 日本がん看護学会 国際活動委員会